

第5次総合計画後期基本計画 審議会委員意見一覧

【資料9】

審議時期	委員のご意見内容	該当箇所	事務局の考え方
1 第1回審議会	まちづくり人口の推計条件について。出生率・移動率等の改善条件が、後期計画期間前から反映されているのは違和感がある。	基本構想 3計画策定の背景 【ウ】人口の動向 まちづくり人口	推計条件を計画開始年の2027年から影響させるように再試算予定
2 第1回審議会	プラットフォームワーカーやギグワーカーなどの増加など、さらに働き方の多様化が進むことが予想される。大企業を中心にサテライトオフィスの設置が進む中、「仕事と豊かな自然を両立できる三田市」は、非常に魅力的なポテンシャルを持っているのではないか	基本構想 3計画策定の背景 【エ】ローカル経済の振興	基本構想に多様な働き方の広がりについて追記を検討
3 第1回審議会 後質問票	・「幸せ」という主観的な指標は、「行政のコントロールが及ばない外部要因」に大きく左右される性質を持っている。幸せ実感度と幸せの構成要素の因果関係を整理することで、行政サービスがどの構成要因で市民の幸せの基盤を支えているかを、客観的に証明・説明できる評価体系になる。 ・市の施策と、幸せ実感度で、どのような因果関係を想定しているか	基本構想 3計画策定の背景 【エ】指標の体系化と最上位指標の設定を新設	総合計画の取り組み（施策）と幸せの構成要素についての関連性を示す方向で検討
4 第1回審議会 第1回審議会 後質問票	・25の施策同士の、横のつながりや関係性が重要である。計画上で、施策間の連携をきちんと取ることを記載し、横の関係性をどう把握するかに注力したらい。・KGIの施策満足度が改善するまでには、時間的・論理的な距離があるようなKPI（実質公債費比率など）がある。 ・全施策共通でKGIに「施策重要度」が設定されているが、施策の性質に応じて「施策重要度」を外すとなどの柔軟な運用が、より実効性の高い進行管理に資する。	基本構想 3計画策定の背景 【イ】施策間連携等による横断的な取り組み	・指標一覧を作成（指標間のつながり、長期的視点の指標、施策重要度をKGIにするか、KPIからKGIへの格上げがないか等を整理） ・取り組み25行政経営では、施策重要度をKGIから外すことを検討。
5 第1回審議会 第1回審議会 後質問票	・幸せかどうかを判断するのに重視する項目という設問で、選択肢「国・県・市などの行政サービス」がかなりざっくりしている。自分の幸せに寄与したような行政サービスが、具体的にどこ（国・県・市）のどのようなものか、またあったらいいなど思うのはどのようなものかを合わせて聞き取るというのもよいのではないか ・家族形態の多様化が進んでいるため、設問の仕方、結果の表記にも注意が必要 ・若い世代へアンケートを届けられる仕組み ・「このまち」は「三田市」とした方がわかりやすい。「私の暮らす地域」と「わたしの暮らす地域」はどちらかに統一した方がよい。	幸せ実感度調査	令和8年度市民意識調査（幸せ実感度調査）実施に際して参考にさせていただく
6 第1回審議会 後質問票	行政評価において、5年固定の評価指標に意見がでるが「見直し時に検討」との回答になる。それらがどう反映されているのか、もしくは今後5年固定なのか検討いただきたい	行政評価関係	『基本構想』において、「行政評価等を踏まえてKPIを変更することがあり得ること、そのことを行政評価の際に議会へ提示する必要があること」等の記載を検討
7 第1回審議会 後質問票	前期計画からの変更点についてわかりやすいようにまとめてほしい。	審議会の資料	前期計画と後期基本計画（素案）が比較できる審議会資料を作成
8 第1回審議会 後質問票	幸せ実感度調査に表れている行政サービスに対する満足度の低さが、一体何に起因するものなのかを十分に理解する必要がある。デジタル技術活用関連のKPIは、「手続きの割合よりも、全市民の何割が使ったか等の実際の稼働をもって評価するのが望ましいのではないか	25行政経営	・令和8年度市民意識調査（幸せ実感度調査）実施時に行政サービスの詳細を聞き取る。 ・指標の変更（実際の利用率）を検討